

1 評論 (一)

「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ 内田 樹

▼教科書 p. 240～p. 245

言葉の学習

1 次の傍線部の読みを答えなさい。

- ① 誕生日の贈り物。(240・1)
- ② 化合物を生成する。(240・4)
- ③ 金品を贈与する。(240・5)
- ④ 元氣よく挨拶する。(240・6)
- ⑤ 十全な準備をする。(241・4)
- ⑥ 空気が振動する。(241・12)
- ⑦ 優れた人物。(242・2)
- ⑧ 賦与された才能。(242・4)
- ⑨ 千里眼で見渡す。(242・9)
- ⑩ 仏道に帰依する。(242・13)
- ⑪ 敵を威嚇する。(243・7)
- ⑫ 技術を駆使する。(243・15)

2 次の傍線部を漢字に改めなさい。

- ① 知人からセイボが届く。(240・1)
- ② 読むカチのある論文。(240・4)
- ③ ギレイ的に挨拶する。(240・5)
- ④ 心に傷をオウ。(240・10)
- ⑤ 古典文学のカイシヤク。(241・7)
- ⑥ ジメイの理。(241・9)
- ⑦ カハイ経済。(241・13)
- ⑧ ズノウ明晰な人。(242・2)
- ⑨ ハイタ的な集団。(242・6)
- ⑩ ジンチの及ばぬレベル。(242・7)
- ⑪ 事故をミゼンに防ぐ。(242・11)
- ⑫ ブンゼンさわやか。(243・15)

3 次の語句の①～③は類義語、④～⑥は対義語になるように、空欄に当てはまる漢字一字を答えなさい。

- ① 答礼 ㊦ 「 」礼
- ② 債務 ㊦ 「 」債
- ③ 十全 ㊦ 「 」全
- ④ 絶対 ㊦ 「 」対
- ⑤ 利益 ㊦ 「 」失
- ⑥ 私的 ㊦ 「 」的

4 次の傍線部を漢字に改めなさい。

- ① ごコウケンをうかがう。
- ② 地域のためにコウケンする。
- ③ コウケンあらたかな薬。
- ④ 姉の子のコウケン人となる。

5 次の語句とほぼ同じ意味を表す語句を選びなさい。

- ① センテンス (241・4)
- ② メカニズム (242・14)
- ③ トリックイー (243・15)

④ アドバンテージ (244・3)

ア 物事の仕組み イ 有利
ウ 奇をてらったさま エ 文

6 語句の意味として正しいものを選びなさい。

① 補填 (241・10)

ア よりよくするために追加すること
イ 有り合わせのもので取り繕うこと
ウ 不足分を埋め合わせる事
エ 協力を得て十分に力を発揮すること

② 論破 (243・14)

ア 議論をして相手の説を打ち破ること
イ 議論中に自分の意見に矛盾が生じること
ウ 議論せずやみくもに意見を言い張ること
エ 議論の際に相手の責任を追及すること

③ 揚げ足を取る (243・14)

ア 相手に媚を売っておもねること
イ 相手のお世辞をそのままに受け取る事
ウ 相手の行動を逐一批判すること
エ 相手の言葉尻をとらえてなじること

キーワード

空欄に最も適する語句を語群から補いなさい。

コミュニケーション (241・13) →461

互いに意思や思考を「 」し合うこと。

〈語群〉 伝達 尊重 推測 主張

本文理解

「『そういうかたちで贈与という儀礼はつくられているのです』 (240・4) とあるが、筆者は「贈り物」とはどのようなものだと考えているか。空欄に適する語句を本文中から補いなさい。

贈り物とは「① 」であるものを贈ることではなく、「これは

② 」だ」と思った瞬間に「①」が生じるものである。

「私たちが挨拶されたときに「返礼義務」 (240・7) を感じるのは、挨拶の言葉をどのように解釈しているからか。空欄に適する語句を本文中から補いなさい。

挨拶の言葉を「① 」の意味を持つ言葉としてとらえ、「自分に

対する② 」だと解釈するから。

3 「負債感」 (240・8) とあるが、()では具体的には、誰が、どうしなければならないと感じることか。簡潔に書きなさい。

4 「遠くから片手をあげても……『自分に対する贈り物』だと解釈することができる」 (241・5~7) とあるが、これはどのようなことか。簡潔に説明しなさい。

5 「私たちがそのことに傷つくのです」 (241・12) とあるが、どのようなことに傷つくのか。簡潔に書きなさい。

6 「ものが商品でも貨幣でも情報でもルールは同じです」 (241・13) とあるが、そのルールとはどのようなルールか。本文中の語句を用いて説明しなさい。

7 「才能の絶対量は評価に値しません」 (242・3) とあるが、①()での「評価」とは、どのような意味での才能の評価か。空欄に適する語句を本文中から抜き出しなさい。また、②どのような人がその「評価」に値するのか。簡潔に書きなさい。

8 「私たちがまず問うべきは……ということですが」 (242・7~9) とあるが、()で筆者が「 」としておおうこととして適切なものを選びなさい。

ア 本当に超能力を持っているかどうか、真偽を確かめるべきだ。

イ 超能力があることと、人間としての評価は何かかわりもない。

ウ 超能力を持たない人のほうが、人間としての才能が豊かである。

エ 超能力があると嘘をつく人にだまされないよう、注意すべきだ。

9 「おおかたの超能力者たちは、……個人的な帰依を求める場合もある」(242・12～14)とあるが、これは、どのような人間の例としてあげられているか。一二四二ページから該当する部分を四〇字以内で探し、初めと終わりの五字を抜き出しなさい。

10 「そこには贈与と返礼のメカニズムは働いていない」(242・14)とあるが、この場合の「贈与と返礼のメカニズム」とはどのようなことか。適切なものを選びなさい。

ア 超能力者が自分の才能をいかして他者に贈り物を与え、代わりに金品などの代償を求めること。

イ 超能力者が天賦の才能を贈り物だと感じ、能力の行使に際して決して見返りを求めないこと。

ウ 超能力者が自分の才能を贈り物だと感じ、それを他者のために役立てなければならぬという返礼義務を感じることに。

エ 超能力者に助けられた人がその才能を贈り物だと感じ、超能力者に対価を払う義務を感じることに。

11 「同じことを知性についてあてはめようとする」(243・10)とは、知性についてどのように考えることを表しているか。「知性という才能も、」につながるように、本文中の語句を用いて書きなさい。

知性という才能も、

12 「まっとうな使い方」(243・13)とあるが、筆者は、能力とはどのように使うべきだと考えているか。端的に表現している一文をこの語句より後の部分から探し、初めと終わりの五字を抜き出しなさい。(句読点含む)

13 この文章で語られている「ノブレス・オブリージュ」(244・6)について、次の問いに答えなさい。

(1) 一般的な意味を答えなさい。

(2) 筆者の考える「ノブレス・オブリージュ」とはどのようなものか。簡潔に書きなさい。

構成と主題

本文の内容を次のようにまとめた。空欄に当てはまる語句を本文中から補いなさい。

第一段落 (240・1～241・14)

贈り物とは、「〔①〕」あるもの」を贈ることではない。挨拶もある種の贈り物であり、挨拶された人は

〔②〕「義務を感じる。挨拶の言葉は単なる単語だが、私たちはそれを〔③〕」の言葉、「自分に対する贈り物」だと解釈する。贈り物は、受け取った側が自力で「〔①〕」を補填しないと贈り物にならない。

第二段落 (241・15～244・4)

「天賦の才能」は「天からの〔④〕」なので、返礼義務がある。それを自己利益のためだけに使用し、敬意や賞賛を得ようとする人間を、筆者は人間として〔⑤〕」できない。人間の持つ能力は、天賦の贈り物に対してどのような「〔②〕」をなしたかによって査定されるべきだ。腕力でも〔⑥〕」でもそれは同じであり、自分に例外的に与えられた能力は、それを持たない人たちの役に立つように使うのが正しい使い方だ。

第三段落 (244・5～15)

すべての人間にはさまざまな種類の「〔⑦〕」の能力がある。筆者は、「〔⑧〕」とは、そのような特異性、多様性、個別性を指す言葉だと解する。力のある人は腕力を、知力のある人は「〔⑨〕」を

「〔⑩〕」たちのために捧げるのが「〔⑪〕」だ。

鑑賞と考察

1 次の①②の例は、本文中においてそれぞれのどのような働きをしているか。簡潔に説明しなさい。

① 「おはよう」という挨拶

② 千里眼

2 筆者の説く「ノブレス・オブリージュ」についての自分の考えを述べなさい。

解答

言葉の学習

- 1①おく ②せいせい ③ぞうよ ④あいさつ
⑤じゅうぜん ⑥しんどう ⑦すぐ ⑧ふよ
⑨せんりがん ⑩きえ ⑪いかく ⑫くし
2①歳暮 ②価値 ③儀礼 ④負 ⑤解釈 ⑥自明
⑦貨幣 ⑧頭脳 ⑨排他 ⑩人知 ⑪未然 ⑫弁舌
3①返 ②負 ③万 ④相 ⑤損 ⑥公
4①高見 ②貢献 ③効験 ④後見
5①エ ②ア ③ウ ④イ
6①ウ ②ア ③エ

キーワード

伝達

本文理解

- 1①価値 ②贈り物
2①予祝 ②贈り物
3(例ア) 挨拶をされた人が、同じ言葉を返さなければならぬと感じること。
(例B) 「おはよう。」と呼びかけられた人が、「おはよう。」と言わなければならぬと感じること。
4(例ア) 言葉によらない仕草からでも、受け取った人はその仕草に込められた意味を補って、予祝の意味を持つものとして解釈できるということ。
5(例B) 単なる仕草からだけでも、受け取った側は「おはよう。」などの挨拶の言葉と同一ような意味を補って、予祝のメッセージとして受け入れることができるということ。
6(例) 挨拶した相手が、こちらの発した挨拶の言葉に何の価値もないと判断を下したこと。
7(例ア) 贈り物は、受け取った側が自力で価値を補填しないと贈り物にならず、そのため贈り物と認識した場合は返礼が必要になるというルール。

(例B) あるものが贈り物になるためには、受け取った側が自力で価値を補填することが必要であり、贈り物だと認識したときには返礼の義務があるということ。

2①人間

②(例ア) 才能を賦与されたことに、深い返礼義務を感じている人。

(例B) 才能を賦与されたことに返礼義務を感じ、他者のためにその才能を使用する人。

8イ

6 天賦の才能 → 用する人間

10ウ

11(例) 「知性という才能も、「腕力と同じように、おのれの知力を誇示して自己利益を確保すると誰もが許しがたいことと思われ、逆にその優れた知力を使って困っている人を助けたりすれば、正しい使い方をしていると思われるものだ」と考えること。

12 自分に例外 → べきです。

13(1)(例) 貴族は、普通の人よりも重い負荷を引き受けなければならないということ。

(2)(例) すべての人間の中にはさまざまな種類の固有の能力があり、それぞれが自分の能力を人々のために捧げるべきであるということ。

構成と主題

- ①価値 ②返礼 ③予祝 ④贈り物 ⑤評価
⑥知性(知力) ⑦固有 ⑧ノブレス ⑨知識
⑩隣人 ⑪ノブレス・オブリージュ

鑑賞と考察

①(例㉔) 贈り物は、それ自体に価値があることが自明であるようなものではなく、受け取った側が自力で価値を補填することで贈り物になるということを、具体的に示す働き。

(例㉕) 「おはよう」という挨拶の具体例を示すことで、贈り物は受け取った側が自力で価値を補填しないと贈り物にはならないという筆者の主張に根拠を与える働き。

②(例㉖) 天賦の才能に対する返礼とは具体的にはどのようなことをわかりやすく示す働き。

(例㉗) 天賦の才能を千里眼という超能力、つまり極端な能力に置き換えることで、抽象的な内容をわかりやすく説明する働き。

③(例) 能力を伸ばすのは本人の努力によるが、伸ばせる環境や、伸びる余地のある能力を持って生まれたことに努力は関係ない。この点で筆者のとらえ方に賛同する。そのことを心にとどめ真つ当に能力を生かしていけば、たとえば物を作る、演奏する、必要な機関を運営することなど、自然と社会のためになると思う。